

2026年3月期第2四半期決算 Web 会議 議事録 主な Q&A

日時：2025年11月4日 火曜日 17:30～18:47

Q1. 26年3月期通期の事業利益計画について

A1. 期初計画 540 億円から 590 億円に 50 億円上方修正する。食肉事業本部では豪州事業の生産拡大や国産豚肉の販売施策、ボールパークが寄与する。国産鶏肉は高水準の市況が続く見込み。加工事業本部では一時的な IT・DX コストが影響するが、数量回復と製造ライン数削減により通期では前年を上回る事業利益を確保する見通し。

Q2. 加工事業本部の今期計画について

A2. 2Q より回復基調にあるものの、1Q 時計画の 120 億円から 105 億円に 15 億円下方修正した。国内では構造改革による効果が継続し、重点ブランド販売強化やファイターズセールなどの販売施策で数量を伸長させ、利益を確保する。海外では北米の M&A 工場の稼働遅れが影響しているが、日本から人財を派遣し、品質を担保しつつ工場の稼働率を高め下期から改善を図る。

Q3. 食肉事業本部の今期計画について

A3. 上期の内部改善および外部要因が寄与し、1Q 時計画の 445 億円から 495 億円に 50 億円上方修正した。国産鶏事業は相場が想定よりも高値で推移しており、安定した利益の確保を見込む。豪州事業は中国向けを中心に販売環境にも恵まれ、輸出も堅調に推移する。輸入食肉事業も在庫コントロールなどの戦略が奏功している。

Q4. ROE や運転資本、配当政策について

A4. 来期中期経営計画最終年度で ROE7～8%を目指している。利益の確保だけではなくレバレッジ強化も大変重要に考えている。今期見通しは 6.6%だが早期に 8%を実現したい。営業キャッシュフローは上期で約 200 億円増加した。輸入食肉の在庫適正化の成果が出ておりキャッシュ創出は継続する見込み。配当方針については DOE3.0%、配当性向 40%を目安としている。キャッシュアロケーションについては 3Q 決算に向けて検討する。

Q5. 内部改善、外部環境、稼ぐ力の見える化について

A5. VBM 推進室が事業本部と連携し稼ぐ力の見える化を進め、今回の内部改善・外部環境に分けた開示に至った。この指標は社内でも月次管理の分析として既に活用している。今後海外事業の分析もすすめ、開示も含めてさらなる進化を目指す。

Q6. 来期の事業利益の見通しについて

A6. 来期事業利益計画 610 億円は達成できると考えている。食肉事業本部は今期のような大幅な上振れは見込まないものの、国産鶏事業における高相場の維持や、豪州事業の好調な販売環境に加え内部改善も継続を見込む。今期在庫を絞り数量が減少した輸入食肉事業も通常仕入に戻り、来期は増益を見込む。加工事業本部も国内での構造改革効果や数量回復に加え、北米工場の稼働率向上や、ASEAN での拡大が利益に寄与することを見込む。

以上